

令和2年度第3回夜間中学等の就学機会確保の在り方に関する検討委員会に係る書面での意見聴取結果 まとめ

- 1 実施方法 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面にて各委員に意見聴取を行いました。
- 2 主な内容 ・学びの場に関するアンケート調査結果について
・就学機会確保のための取組の方向性について

3 主な意見

【学びの場に関するアンケート調査結果について】

- ・ 夜間中学に関する項目で「すべての教科」や「3年間」の明記により、夜間中学への入学のハードルを上げてしまったのではないかと懸念されている。全国の夜間中学の状況を見ても、卒業までの期間は様々である。明記したことにより、ハードルを上げた可能性も踏まえて、考察する必要がある。
- ・ 不登校や学校という集団になじめない発達障害の子どもたちが、もう一度、学び直したいと希望するようになった時、利用できる学びの場が地域社会にあるのは大切なことである。対面授業とインターネット授業を状況に応じて選べるようにすれば利用できる人が増えるのではないかと懸念されている。
- ・ 形式的に義務教育課程を卒業した児童生徒が義務教育内容を学び直したりする場としての夜間中学の開設は、一定程度の需要があるのではないかと懸念されている。一方で、外国籍生徒の高校進学希望も増えているため、高校進学後も日本語学習を教科学習と並行的に指導していくような外国人生徒を支援していくシステムを、県立高校として構築していくことをぜひ検討いただきたい。
- ・ 現在、新型コロナウイルスの感染拡大により失業し、特に日本語能力が十分でない方は再就職が難しい状況にある。コロナ禍において就職のために日本語学習の必要性を感じている方の多いことが、調査結果にもある程度、影響しているように思う。
- ・ 今回の調査結果では、市町によって、人数に多寡はあるものの、広域にわたっていることから市町の協力を得ながら複数校の設置も検討していくべきである。
- ・ 今回の調査で「通いたい」と回答した方々が、夜間中学について正確に理解しているかどうか、回答者の状況が夜間中学で学ぶことに該当しているのかどうか等について、個別のヒアリングを通して把握する必要があると思われる。
- ・ 中学校段階の内容や日本語の読み書きについて、「学べるところがあったら通いたい」という回答が多かったが、学びたい内容については、回答数がほぼ同じくらいの割合で三分された。通学制、e-Learning制、オンライン制など「多様なニーズに対応可能な学びの場」があるとよい。

【就学機会確保のための取組の方向性について】

- ・ 当該調査において、夜間中学に通いたいというニーズと、日本語を学びたいというニーズがほぼ同数であったことを踏まえると、両方のニーズに応えられる併設形の学びの場ができるのが理想である。早急な夜間中学設置にこだわらず、両方のニーズに応えられる併設形の学び直しができる施設をテストケースとして開設し、

さらに踏み込んだ学習ニーズを掘り起こした後、再度、設置対象を絞り込んだ検討を行うことが必要だと考える。

- ・ 他県の例をみると「学び直し教室」の希望者を募ることは非常に難しく、その情報が対象者に確実に届くよう、広報を十分に行う必要があり、短期に集中してスピード感をもって行うべきである。
- ・ 学び直し教室については、県内複数箇所において複数回開催し、義務教育段階における教科等をはじめ、日本語学習等についても体験できるハイブリッドな教育内容があることが望ましいのではないかと考える。実証的な検証をすすめ、具体的な検討・準備を進めるべきであるとする。慎重に検討することも必要であるが、早期に夜間中学もしくは夜間学級として設置されるべきであるとする。
- ・ 一定期間、学び直しの場を提供し、ニーズを把握するなど今後の方向性を検討・模索する方向で考えてみてはどうか。また、外国人の日本語を学びたいというニーズも相当数あることから、民間の取組などと連携しながら対応することが現実的とする。教育委員会だけでなく、環境生活部、雇用経済部など県庁内での連携、民間の団体や企業等との連携が必要である。
- ・ 夜間中学設置に向けて具体的準備を進めていくこととなった場合、その設置の形態については、オンライン教育やサテライト教室等も考えられるが、中学校卒業資格が認められる条件整備が必要である。
- ・ 学校の施設・設備面にかかわっては、安心して学べる環境が公的に整備されるべきであり、教材・教具等の設備・備品等も十分に整備されるべきであるとする。

【その他】

- ・ 夜間中学においては、学びたい人にとって「初めての学びの場」になることも考えられるので、「学び直し」という言葉はふさわしくない。
- ・ 高知、徳島、岡山等他県での夜間中学の設置までの経過、同県内で実施されたアンケート結果、各県の夜間中学のカリキュラム等の情報が、今後三重県での教育機会確保の在り方を検討する上でも参考になるとと思われる。
- ・ 今、三重県にいる人だけでなく、他国、他県から将来三重県に来る人も想定することが重要ではないか。全国的にみると、三重県の外国人児童生徒への支援は充実しており、他県から移動して来る可能性もある。今後、経済状況が更に不透明化すると、外国人の移動が活発になることは予想でき、それも念頭に置いた検討が必要である。